

令和 7 年度 学校経営計画

練馬区立光が丘第二中学校

校長 水谷 実岐

〈 教育目標 〉 ○よく考える ○進んで働く ○協力し助け合う ○心身を鍛える

〈 目指す学校像（学校経営） 〉

「みんなが大好きな学校・みんなが誇りとする学校「光が丘第二中学校」

～一人一人が大切なことから、心身の安心と安全を守り抜く学校～

○豊かな心の育成○

人権教育・道徳教育の充実により、豊かな心を育成し、生徒一人一人の自立を促します。自立した人間へと成長させるために、たくさんの人たちとの関わりを通して、社会性・多様性を養い育てるとともに、生徒一人一人の主体性・創造性・個性を伸ばし、発揮させ、自己実現を図ります。

○主体的に学ぶ姿勢の確立○

変化が激しく予測困難な時代の中でも通用する確かな学力を身に付けさせ、個別最適な学びを最大限引き出します。また、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための、体づくり運動や各種のスポーツ活動はもとより、保健や安全に関する指導、給食を含む食に関する指導を充実させます。

○開かれた学校づくりの推進○

家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ります。学校を地域に開き、近隣小学校や地域とのつながりを重視し、生徒・保護者・地域の声に真摯に耳を傾け、信頼を得ながら教育活動の発展に活かします。地域に愛され、地域とともに歩む学校を目指します。

〈 令和 7 年度の達成目標と具体的方策 〉

（１）人権教育・道徳教育を通じた健全育成および豊かな心を育成する教育の推進

- ・人権に関する研修を通して、教職員が意識を高くもって指導にあたるとともに、生徒の発達段階に応じて、人権を基盤とした教育プログラムを実施する。
- ・系統性ある道徳教育の年間計画に基づき、道徳の時間の充実を図る。
- ・道徳地区公開講座を実施し、保護者・地域と共に、道徳教育について考えていく機会とする。教職員の研修を深め、「考え・議論する道徳の時間」のさらなる推進を図る。
- ・生徒個人日誌の定着化を図り、持ち物や予定等を把握して確認する週間を身に付けさせる。
- ・生徒個人日誌を通して、生徒の心理状態や課題等について把握する手がかりとするとともに、生徒理解といじめ等の未然防止に活用する。
- ・生徒朝礼や学級活動の時間等を活用したいじめ防止の取組を推進する。生徒会を中心に作成した SNS に関する「光が丘第二中学校ルール」の周知徹底を図るとともに、生徒がいじめや犯罪などのトラブルに巻き込まれないように、継続的な指導を進める。

- ・生徒が決めた光二中五カ条：１あいさつをしっかりとすること２暴言暴力をしないこと３忘れ物をしないこと４５分前行動３分前着席を心がけること５何事にもしっかりと取り組むこと」を活用した生活指導を推進する。
 - ・体育的行事、文化的行事、宿泊的行事等を通して、生徒の主体的な活動を引き出しながら、達成感と成就感を体感させ、成長につなげる。
 - ・部活動は生徒の成長を図る重要な場として位置づけ、活動の充実を図る。活動については東京都教育委員会発出「部活動に関する総合的なガイドライン」を受けた練馬区教育委員会の方針に則って行う。
- (2) 確かな学力の定着・向上や、体力の向上および健康の保持増進を図り、主体的に学び続ける生徒を育てる教育の推進
- ・各教科等において、小・中学校の系統性を生かした指導により、知識・技能の習得を図るとともに、問題解決学習、体験学習、実験・観察等の多様な学習方法を組み合わせた指導を推進し、主体的に学習に取り組む態度や思考力、判断力、表現力を育成する。
 - ・１人１台専用タブレット端末を最大限に活用し、個別最適な深い学びと協働的な学びの実践を行う。
 - ・学習支援アプリの有効活用により、個に応じた学力の向上と、家庭学習の定着を図る。
 - ・生徒授業アンケートを活用し、授業改善プランを継続的に見直し「分かる授業」を工夫実践する。
 - ・長期休業中や放課後等に質問教室や補充教室を実施し、個に応じた学習指導を推進する。
 - ・数学科、英語科において、課題や習熟の程度に応じた少人数授業を実施し、指導の個別化を進める。
 - ・総合的な学習の時間における言語活動を重視し、学習活動のまとめや発表の場を工夫し、課題解決の力や表現力を高める。
 - ・図書館だより等で学校図書館の活用を促すとともに、ビブリオバトル等を取り入れて読書活動の充実を図る。
 - ・地域未来塾を活性化させ、学力の定着と主体的な学びの姿勢を養う。
 - ・保健体育の授業、体育的行事、部活動等を通して、生徒の体力向上に対する感心・意欲を高めさせ、基礎体力の向上を図る。
 - ・休み時間において、身体運動を取り入れた競技の実践を通し、日常的に楽しく身体を動かすことで、体力の向上と健康の保持増進を目指す。
 - ・定期健康診断、身体計測体力測定を計画的に進め、生徒の実態を把握して指導に活用するとともに、学校保健委員会で報告し、共有を図る。
 - ・学校保健委員会における、学校医・学校薬剤師などの指導助言に基づいて、課題や改善点を明確にし、日常の健康指導に生かす。
 - ・食物アレルギー対応については、栄養士が中心となって各学年教員と連携しながら、アレルギー面談等を通し、関係生徒への対応を確実に進める。
 - ・生徒の食生活への感心を高めさせるため、栄養士や食育主任を中心に、食育に関する指導を計画的に推進する。
- (3) 家庭および地域社会に信頼される、開かれた学校づくりの推進
- ・落ち着いた学習環境・生活環境づくりを進めるため、授業規律の確立を学習指導・生活指導の基本とし、全教職員の共通実践を徹底する。
 - ・学校におけるさまざまな取り組みについて、学校ホームページ、学校だより等で積極的に発信していく。
 - ・避難訓練、防災訓練等の安全教育の推進を図り、安心で安全な学校づくりを行う。
 - ・練馬区防災課、避難拠点運営連絡会、地元自治会等とも連絡を取り合い、学校としての役割を明確にする。避難拠点実施の避難訓練への生徒の参加について、積極的に行う。
 - ・道徳地区公開講座、セーフティ教室、情報モラル講習会に加え、学校公開の機会を通して、保護者・地域との意見交換、情報交換を積極的に進める。
 - ・保護者と教職員の会との連携を巣据え、保護者とともに学校の活動を充実させながら、生徒たちの見守り

体制を強化する。

- ・青少年委員会、青少年育成委員会との連携を図り、青少年リーダー研修会やボランティア活動等への生徒の積極的な参加を促す。

(4) 支援が必要な生徒たちへの取組の充実

- ・個別指導計画を必要に応じて作成し、該当生との課題に対応した支援方法を工夫・改善していく。
- ・学力不振等への組織的対応を行って対策を講じ、生徒の自己肯定感を高める。
- ・特別支援教室に通う生徒については、校内支援委員会を中心に教職員、巡回指導教員との十分な連携を図り、退級までを見据えた支援方法を検討する。
- ・特別支援教育コーディネーターを中心とした、校内支援委員会を毎週実施し、スクールカウンセラー、心のふれあい相談員とも緊密に連携し、全教職員で必要な指導・支援を推進する。
- ・いじめ防止対策委員会を中心として、生徒に関する情報交換をきめ細かく進め、徹底した実態把握と即対応の姿勢をもつ。
- ・三者面談の機会を捉え、生徒や保護者からの相談に丁寧かつ迅速に対応する。
- ・学校生活に関するアンケートを年3回以上行い、いじめの早期発見・早期解決につなげる。

(5) 信頼される学校づくりと、その基盤となるサービスの厳正、教職員研修の推進等

- ・個人情報の管理を徹底する。手渡し、声かけ、内要確認、机上整理等の徹底により紛失を防ぐ。
- ・服務研修を定期的実施するとともに、機会を捉えた服務事故防止の啓発を行って、「服務事故ゼロは当たり前」を浸透させる。
- ・体罰、不適切な指導について、アンケートや面談等で実態把握を行うとともに、それらは絶対に許されない、という職場の雰囲気醸成する。
- ・学校予算の計画的、効率的な執行を進める。購入した備品・消耗品等の年度内活用を徹底する。
- ・私費会計について、区の規則に則り、定期的な確認、諸帳簿の整備を進め、適正な会計管理と執行を行う。保護者負担による購入物品については十分な精査を行う。
- ・担当者を中心に情報セキュリティの管理を強化する。特に校務用 PC のデータ管理については、区の規則に則り行う。
- ・学校全体で組織的に人材育成に取り組み、適正な OJT を実施する。
- ・積極的な研修会参加により日常的な自己研鑽に励む。

(6) 特色ある学校づくりの推進

- ・近隣小学校と連携した活発な児童生徒交流を図り、さまざまな場面で対話は協働の機会を設定する。合意形成による納得解を生み出す力を育む。
- ・朝のあいさつ運動を推進し、自らすすんであいさつする姿勢を育成する。
- ・小学生による中学校訪問と授業見学、あいさつ運動、クリーン運動、中学生による児童への学習指導体験（算数リトルティーチャー等の交流を通し、中学生としての自覚と自己肯定感、自己有用感の醸成を図る。
- ・キャリアパスポートを有効に活用したキャリア教育を推進する。職業調べ、職場体験学習、マナー教室などの実施により、生徒が将来や進路について考える機会を充実させる。
- ・3年生の進路指導については保護者との連携を十分に図り、計画的に丁寧に進めていく。生徒一人一人に寄り添う姿勢を大切にしながら、進路決定にむけて粘り強く指導・支援を行っていく。
- ・「ごみをまたがない」をモットーに校内美化を行い、生徒が気持ちよく過ごせる校内環境を整備していく。
- ・各教科や特別活動、学級活動、部活動等における生徒の作品、成果物などを校内に展示することで、学習成果を共感できる環境づくりを進める。